



AFJ日本農業経営大学校

イノベーター 養成アカデミー

Innovator Training Academy

2026年度 パンフレット

Innovation for Agri Future

新しい価値を協創し、
アグリビジネスを変革する

問い合わせ

AFJ日本農業経営大学校

(運営法人:一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン)

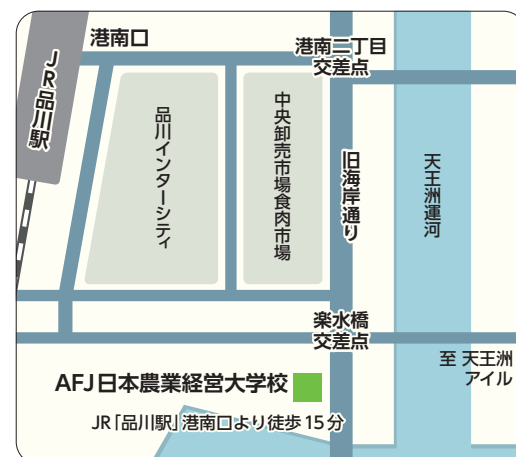
〒108-0075 東京都港区港南2-10-13 農林中央金庫品川研修センター5階

TEL:03-5781-3751 Mail:admission@afj.or.jp



AgriFuture Japan

挑む人に、全力。



イノベーター養成アカデミー

イノベーション開発手法であるリーンスタートアップの考え方を取り入れ、実践・検証を軸とした学びにより、最短1年で、アグリビジネスイノベーターになるために必要な力を身に付けます。

こんな人に最適です

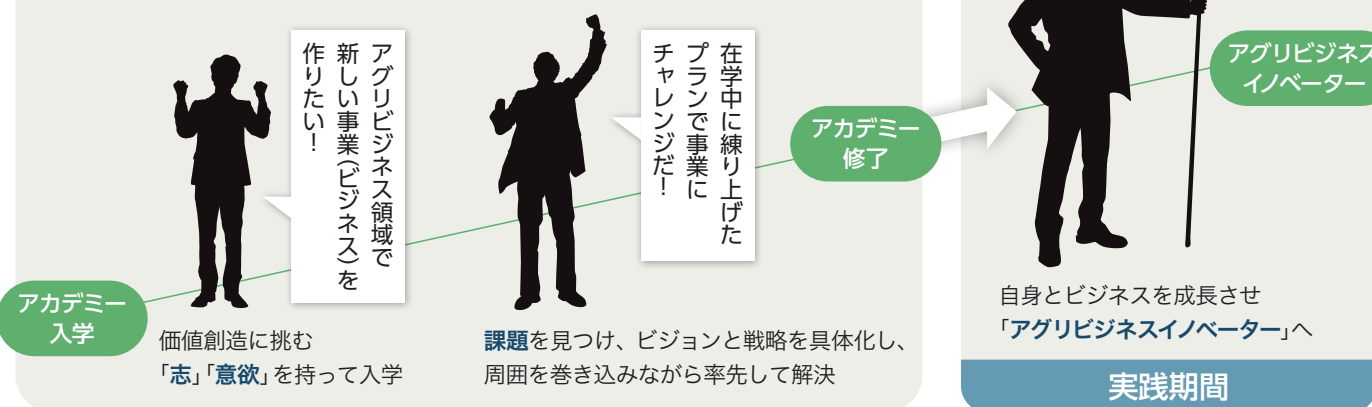
- ① アグリビジネス領域で起業や新規事業を立ち上げたいと考えている方
- ② アグリビジネスによって社会課題を解決したい方
- ③ 現在の農業経営に変革を起こしたいと考えている方
- ④ 自らのアイデアを形にするために協創パートナーを求めている方 など

アグリビジネスイノベーターとは

目まぐるしく変化する社会や環境において、川上(生産)から川下(販売)に至るバリューチェーンとその周辺産業で構成されるアグリビジネスの領域で、新たな価値の創出と課題解決により革新を起こす人材です。

アグリビジネスイノベーターになるまでの道のり(イメージ)

イノベーター養成アカデミー在学期間(1~3年)



活躍するイノベーターたち(将来像イメージ)



ゲノム育種、農業ロボット開発など、研究開発型農業で世界を目指す

浅井 雄一郎 さん

株式会社浅井農園 代表取締役社長 CEO

1980年生まれ。大学卒業後、コンサルティング会社を経て2008年に家業継承。第二創業としてミニトマト生産を開始。独自の農業バリューチェーンを構築・生産規模拡大に取り組み、国内トップクラスの農業生産法人に成長。

Message

社会は常に“変化”しています。人間が生きていく上で必須である農業というフィールドにおいて、その“変化”に対応できる、新たな“変化”を起こせるイノベーター人財が必要とされています。農業経験は必要ありません。新たな発想と勇気を持って、一步を踏み出してください。



気候変動や食料危機の課題に今までにない農業技術で果敢に挑む

豊永 翔平 さん

株式会社 Cultivera 代表取締役 CEO
株式会社ポモナファーム 代表取締役 CEO

1989年生まれ。環境保全と両立する農産物の可能性を探り、2016年に株式会社Cultiveraを設立。独自特許技術Moiscultureを基盤に様々な農業技術の研究開発を行い、自身でも三重県にて農業生産法人ポモナファームを運営。

Message

新しい時代への転換期に生きることは、途轍もなく貴重な事です。農業には多様な手法や世界が広がっており、今の世界を支えるためには、数十、数百のイノベーションが必要だと言われています。農業は経験産業で時間がかかるからこそ、迷わずに今、挑戦することを期待しています。

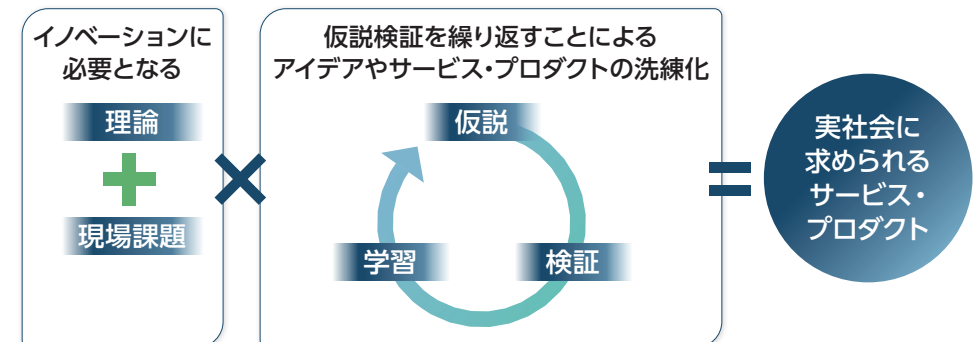
Feature

アカデミーの4つの特長

特長
1

実効性の高いプランを作り上げる「リーンスタートアッププログラム」

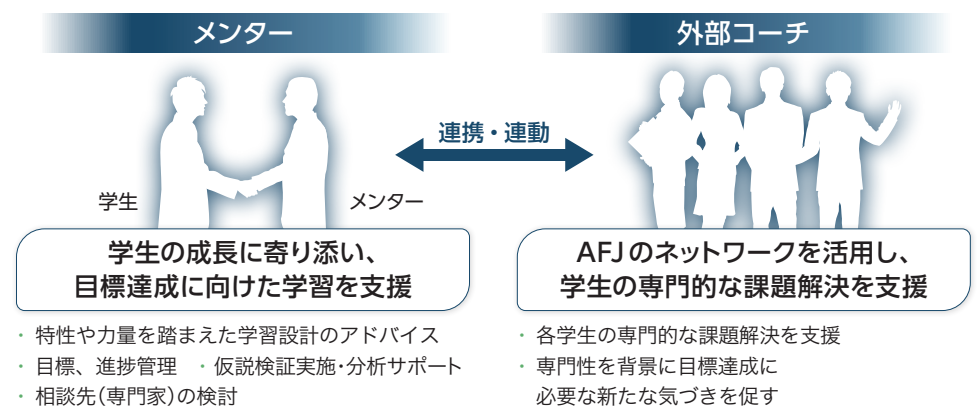
理論を学ぶだけではなく、実際に現場で課題を見つけ、解決方法を検討し、効果を検証します。そのサイクルを繰り返すことで、より実効性の高いビジネスプランを作り上げることができます。



特長
2

メンター・外部コーチによる「伴走支援」

効果的な学びをサポートするメンターと、各領域の課題解決をサポートする外部コーチが伴走し、実現したいビジョンに向けた個々人の学びを全力で支援します。



特長
3

様々な人脈や協力が得られる「AFJネットワーク」

当社の活動を支える200以上の会員に加え、自治体や企業、農業法人などとの交流を通じて、商品開発の連携や仮説検証の協力などにつなげます。



特長
4

「仕事と学びの両立」が可能なスケジュール

平日の夜間にオンライン講義やプランの作成、伴走者との面談を行い、土日に集合研修や現場での仮説検証を実施するなど、仕事との両立を前提としたスケジュールを想定しています。



一次産業における研究は、 現場で使ってから「スタート」

新規事業の立ち上げに 必要な力を身につける

イノベーター養成アカデミーに出願したのは、職場の上司から紹介されたのがきっかけでした。

私自身、新しいことに挑戦したいという想いがあり、勤務先の企業も事業の幅を広げることに前向きなので、新規事業の立ち上げに必要な力を身につけたいと考えています。これまでは、良いアイデアが生まれても「実際に何をすべきか」「どこから考える必要があるのか」が分からない状況でした。現在、自社で相当量の残渣が出ることを課題に感じており、アカデミーでの学びを課題解決のきっかけにしたいと思っています。

もし自社でうまくいった場合、一般的な施設栽培全体における残渣処理に対して課題解決の手段になり得ると考えています。

将来の夢は 一次産業の活性化への貢献

大学時代、身入りが少ないため放置されるウニを、人工飼料を使った養殖で商品化させるための研究を行っていました。放置されるはずのウニに商品価値が生まれれば、今まで捨てていたものが有用になる。同じように、農業界にはもっと改善できる余地があると思っており、イノベーションによって過去のイメージを払拭することで、日本を支える産業として、より発展できる未来があると考えています。



蒲 祥輝さん

北海道大学大学院水産科学院を修了後、施設栽培型の農業法人に入社。現在は“現場を科学する”をビジョンとして掲げる株式会社浅井農園にて生産業務に従事。

※所属およびインタビュー内容は、取材当時のものです

多彩な視点に触れられる 学生同士のディスカッション

多様なフレームワークとその活用法を学ぶ研修や、アグリビジネス関連の講義など、“アイデアをかたちにすること”についての講義が、新しい体験で有意義に感じています。メイン講師の三村先生は、起業家としての経験を踏まえた指導が魅力。集合研修は、他の学生と意見交換をすることでモチベーションが高まる貴重な時間です。農業生産とは全く異なるキャリアを築いている方も多いため、多様な視点を交えたディスカッションが生まれ、普段の環境では味わえない刺激を楽しんでいます。

この一年間で、たとえ今持っているアイデアを事業化できなくても、その根幹となる力や考え方を体得することで、今後のアイデアの具現化に活かせると信じています。

出願検討中の方へメッセージ

「今の自分だけでは先に進めない」と感じている方には、挑戦してほしいと思います。イノベーター養成アカデミーに入学すれば、同じ志を持った同期や、講師、メンター、外部コーチの方など、様々な人が一緒になって後押ししてくれる環境があります。まずは最初の一步を踏み出してください。

「新規事業企画」で 食料安全保障の確立に貢献したい

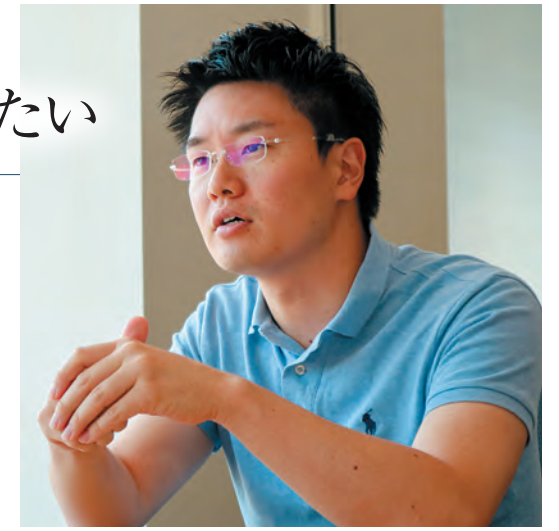
食農分野に特化した 講師・会員とのつながりに プライスレスの価値がある

大学院で農学分野を専攻し、これまで研究・生産・製造・政策など様々な局面から食農産業に関わる仕事をしてきました。現在は、IT企業で食農分野の新規事業を担っており、一気通貫で食農ビジネスを推進できる力を身につけるために、イノベーター養成アカデミーに出願しました。

アカデミーの「食農分野に特化した網羅的な講義と豪華な講師陣」「修了までの伴走支援体制」「食農分野の会員との豊富なりレーションを紹介いただけること」は非常に魅力的で、講師陣及び会員とのリレーションにはプライスレスの価値があると思っています。食農業界における川上から川下まで、幅広いリレーションを形成できている教育組織は他にありません。

美味しい食べ物は 人々の笑顔や安らぎの源。 現場の経営状態を改善することで 食料安全保障に貢献したい

大学時代の講義で教授から「あなたにとって、どの食品が世の中からなくなったら一番困るか？」と問われました。その会話の中で「嗜好性の高い乳製品や肉がなくなると食事の楽しみや、食事が生み出す人とのつながりも減る」という話があり、そこから「食の文化は、ただ美味しいというだけでなく、それが明日への活力を生み出し



船津 祥一郎さん

京都大学大学院農学研究科を修了後、都市ガス会社に入社。その後、より専門性に近い食農産業に広く関わることを目的として国家公務員総合職に転職。現在はIT企業にて食農分野の新規事業を担う業務に従事。

※所属およびインタビュー内容は、取材当時のものです

ている」と思うようになりました。

畜産物の生産現場は、現状様々な課題があり、厳しい経営状態に陥っています。現場の経営状態を改善することで少しでも離農を減少させ、畜産物の食料安全保障を確立することに貢献していきたいと思っています。

畜産は耕種と密接に関係することから、将来的には畜産に限らず、一次産業や食農バリューチェーン全体に貢献できればと考えています。

そのためにも、まずはこの一年間で新規事業の実効性ある計画を立案することが目標です。アカデミーでの学びとリレーションを活かして、市場調査や分析、専門家とのディスカッションを交えながら有益な計画を立案し、連携パートナーとの協力体制まで築きたいです。

出願検討中の方へメッセージ

新規事業企画の立案には業界の内部まで精通している方へのヒアリングが必要になります。しかし、肩書がない状況では“専門家にアポイントを取ること”自体が難しいため、本アカデミーのリレーションには大きな価値があると思います。アグリビジネスでの起業や、新規事業の企画立案を考えられている方は、ぜひ入学を検討してほしいと思います。

カリキュラムの全体像

リーンスタートアッププロセスの中核となる戦略立案・仮説検証行程を軸とした3つの行程と伴走を通じて、「アグリビジネスイノベーター」に必要な力を身に付けます。



伴走支援

伴走サポートの内容

- 対面 オンライン
- 目指したい姿や元々持っている能力や知識に対して、必要な学びの提案や個別の課題に対するサポートを行います。
- 目標、進捗管理・モチベーション管理
 - 内容検討・ブラッシュアップサポート (壁打ち・相談)、外部コーチ連携
 - 仮説検証実施サポート・市場分析サポート



対面での集合研修や発表会は、AFJ日本農業経営大学校(品川本校)での実施を予定しています。

